

「まちづくりふれあいトーク」 ～お手紙編～

たくさんのご意見・ご提案ありがとうございました

今年度の「まちづくり懇談会ふれあいトーク」は、感染症拡大防止の観点から、当面の間、開催を延期しています。そのため、「懇談会」ではなく「お手紙」で皆様からのご意見・ご提案を広く募集したところ、134通のお手紙が寄せられました。お寄せいただいたご意見・ご提案は市の施策やまちづくりに役立ててまいります。

ここで、いただいたご意見・ご提案などの一部と、市の考え方を紹介します。

赤津川の災害対策

Opinion & Suggestion 1 防災

ご意見・ご提案1

2015年、2019年と赤津川が氾濫し、床下浸水しました。50年に一度の災害と言われましたが、わずか4年後に前回より水嵩が増した濁流が押し寄せてきた。

広報とちぎ8月号の河川災害対策には赤津川については何も説明されてない。3月市議会定例会で議員が質問し、建設部長が答弁しています。県が越水対策を検討し、市は田んぼダムの導入を検討しているとの事でしたが、その後の進捗が開示されていない。永野川は川幅を広げ護岸、堤防嵩上げし、巴波川は地下トンネルで減災計画とのこと。70年前、巴波川の治水の為、永野川に分水路にした同じ一級河川である赤津川の抜本的対策は何ですか。

東北自動車道の下の赤津川は川幅が狭くなっており、更に草が生い茂り、ますます河川の流れを妨げている。川底をさらに護岸工事で恒久的な対策をぜひお願いします。

雨が降るたびにまた浸水するのではないかと不安で仕方ありません。市民が災害の地域格差なく安心して生活できるように行政は対策と迅速な情報公開をお願いします。

回答

令和元年東日本台風により被害を受けた赤津川においては、県により災害復旧工事及び堆積土除去工事が実施されたところです。

赤津川流域の浸水対策につきましては、県により対策手法の検討が進められており、市としても、県の計画に支援・協力していきます。また田んぼダムについては、現在導入に向け市と土地改良区及び水田農家との間で詳細な協議を進めているところであり、今年度に土地改良区内の田んぼにおいて雨水貯留の実証実験を行う予定です。

今後におきましても、市民の皆様により進められている浸水対策の進捗状況をお伝えするよう努めます。



増水した赤津川

飲食店等の感染症対策を見える形に

Opinion & Suggestion 2 新型コロナウイルス感染症対策

ご意見・ご提案2

他市の飲食店等でのクラスター発生を受けて各事業者は自助努力として感染症対策を行っていると思うが、そのような対策を行っている店と行っていない店の判別は一般市民にはできないと思います。県と協議するなどして判別するための方策を市として検討はされてはいかがでしょうか？

回答

栃木県では、感染防止対策に取り組みながら社会経済活動の本格展開を図るため、各業界団体と連携した感染防止対策を徹底する取組と、各事業者の参加による感染防止対策の「見える化」の取組を、県民運動として展開しています。

取組宣言を行った業界団体は、各事業者に対して感染防止対策の普及・支援を行い、感染防止対策を実施している事業者は、「宣言書」「ステッカー」を店頭等に掲示しています。

栃木市でも、県の取組を補完す

Opinion & Suggestion 3 生活環境

取っ手付き指定ごみ袋の導入を

ご意見・ご提案3

商品購入時の際のビニール袋が有料となりました。埼玉のある市では、スーパーのビニール袋に市が協賛し、そのビニール袋でゴミ出しが可能とのこと。購入したとしても使い道があり、一石二鳥ではないでしょうか。栃木市もぜひご一考ください。

回答

取っ手付き指定ごみ袋（レジ袋タイプ）については、他にも市民の皆様から要望を受けており、その導入について検討しているところです。今回いただいたご意見も参考にさせていただき、取っ手付き指定ごみ袋（レジ袋タイプ）の導入について検討していきます。



オンライン学習の検討は？

Opinion & Suggestion 4 学校教育

ご意見・ご提案4

コロナで休校時に、オンライン学習を実施できた公立の学校もあった。栃木市はオンライン学習の考えはあるか。

回答

コロナ禍の臨時休校中におけるオンライン学習については、国の調査によると、公立学校での実施状況の割合は全国の5%という結果

でありました。全国的に見ても、オンライン学習が実施できる環境が不十分であり、本市も同様の状況です。現在、国が進めているGIGAスクール構想の実現に向け、本市でも取り組んでおります。本年度中に1人1台端末配置を目指し、学校や家庭でのオンライン学習の実現に向けて進めていきます。

4市2町での渡良瀬遊水地活用

Opinion & Suggestion 5 観光振興

ご意見・ご提案5

渡良瀬遊水地は、東京から60kmという立地にあり、この広大な大自然は首都圏の宝です。これを構成するのは、栃木市、小山市、加須市、古河市、野木町、板倉町の4市2町であり、栃木市は71.2%の面積を占めている。

4市2町がタッグを組めば、県や国も動かすことができると思う。是非4市2町を大川市長がまとめ、足並みを揃えて渡良瀬遊水地の活用を図っていただきたい。

4市2町は、自治会等の地域の代表、渡良瀬遊水地に関係する各種団体、国内ラムサール条約関係官庁及び河川管理者をもって構成する「渡良瀬遊水地保全・活用協議会」を組織しており、現在、大川市長がその協議会の会長を務めています。

今後さらさら4市2町等で連携を強化し、渡良瀬遊水地の活用等を進めていきます。



問合せ シティプロモーション課 ☎(21)2317